

千の葉の芸術祭実行委員会第2回総会 議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和5年7月21日（金） 14時00分～

2 開催場所

千葉市役所新庁舎 高層棟4階 幹部会議室

3 出席者

（委員）神谷委員、佐久間委員（代理）、朝香委員（代理）、曾我辺委員、飯田委員、山梨委員、足立委員、青柳委員、大澤委員、木村委員（代理）、小池委員、那須委員、橋本委員、秋幡委員（代理）、松戸委員

（事務局）小名木生活文化スポーツ部長、市倉文化振興課長、川口文化振興課長補佐、松田文化振興班主査、伊藤主任主事、安藤主任主事、野口主事

4 議題

- （1）総合ディレクターの選任について
- （2）収支予算書と事業計画について
- （3）部会への諮問について

5 議事の概要

（1）総合ディレクターの選任について

令和5年3月30日付で諮問した、総合ディレクター候補の選定について、部会から中村政人氏を総合ディレクター候補として答申を受け、総会で審議を行い、中村政人氏を総合ディレクターとして決定した。

（2）収支予算書と事業計画について

収支予算書と事業計画について、案の通り決定した。

（3）部会への諮問について

部会への諮問について、案のとおり決定した。

6 会議経過

（神谷委員長）それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。よろしくお願いいたします。

では、議案第1号 総合ディレクターの選任について、事務局から説明をして下さい。

（事務局）事務局より説明させていただきます。資料1 総合ディレクター選考基準をご参照ください。

こちらに記載の選考過程にあるとおり、「1. 実行委員会総会において、千の葉の芸術祭の総合ディレクターとしてふさわしい者を選ぶための選考基準を検討し、決定する。」については令和5年3月30日に開催された千の葉の芸術祭実行委員会第1回総会にて本選考基準の決議をい

ただきました。

また、「2. 実行委員会総会から部会へ、総合ディレクター候補者の選出について諮問する。」につきましては、同じく千の葉の芸術祭実行委員会第1回総会におきまして千の葉の芸術祭実行委員会から部会に諮問をしております。

本日は、「3. 部会は、選考基準を基に総合ディレクター候補者の選出を行い、実行委員会総会へ答申する。」「4. 実行委員会総会は、部会が選出した候補者から総合ディレクターを選任する。」に従いまして、部会で審議を行い選出した総合ディレクター候補を、部会から実行委員会に答申を行い、実行委員会で決議のうえ総合ディレクターを選任していただくこととなります。

まず、千の葉の芸術祭実行委員会部会より本実行委員会に総合ディレクター候補の答申を行う前に、本選考基準に基づき千の葉の芸術祭実行委員会部会で選出した総合ディレクター候補の紹介をさせていただきます。

資料2 総合ディレクター候補についてをご参照ください。

まず、候補者につきましては、中村 政人氏でございます。

肩書といたしましては、「アート×コミュニティ×産業」の新たな繋がりを生み出すアートプロジェクトを進める社会派アーティストをされており、東京藝術大学絵画科教授・副学長でいらっしゃいます。

続けて、経歴につきましてご説明いたします。各注釈につきましては、後程ご説明させていただきます。

1963年秋田県大館市生まれ、1993年に銀座にて「The Ginburart (ザ ギンブラート)」

1994年に歌舞伎町にてゲリラ型ストリートアート展「新宿少年アート」を実施されました。

1999～2000年に秋葉原電気街を舞台に行なわれた国際ビデオアート展「秋葉原TV」。

2004～2016年に富山県氷見市にて「ヒミング」を開催し、2007～2019年に秋田県大館市にて「ゼロダテ」の開催など、地域コミュニティの新しい場をつくり出すアートプロジェクトを多数展開されました。

1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰され、全国で地域再生型アートプロジェクトを展開し、2010年に民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」を創設されました。

2001年に第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ、日本館に出品され、マクドナルド社のCIを使ったインスタレーション作品が世界的注目を集めました。

2020年より「東京ビエンナーレ」の総合ディレクターを務められています。

著書といたしましては、「美術と教育」(1997)、写真集「明るい絶望」(2015)、「新しいページを開け!」(2017)、「アートプロジェクト文化資本論:3331から東京ビエンナーレへ」(2021)がございました。

受賞歴といたしましては、平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞がございました。

続きまして、各注釈のご説明をさせていただきます。2ページをご覧ください。

※1「ヒミング」について、現在は活動休止中ですが、地域のサスティナブル・アイデンティティを発見して創造していくアートプロジェクトとして開催されておりました。

地域において、一見価値が無いと思われるものに新しい価値を生み出していくべく、アーティストが地域資源や地域課題を素材とした作品を滞在制作し、その地域で受け継がれ、かつ、特質すべき文化資源に光をあて、それを地域産業や観光産業にまで発展させていくこと目指して、アートプロジェクトを展開しておりました。

続けて、※2「ゼロダテ」についても、現在は活動休止中となっております。

中村氏の故郷である大館市の大町商店街は、かつては商業の中心地として栄えていたが、昭和30年～40年をピークに衰退していき、シャッター通り化が進んでおりました。その現状をアートの力で変えていくことを目指し、大町商店街で「空き店舗アート展」を開催しました。2009年には

中小企業庁の「新がんばる商店街 77 選」にアートの街づくりで選ばれました。

続けて、※3文化施設「アーツ千代田 3331」につきましては、2008年に千代田区文化芸術プランの重点プロジェクト「ちよだアートスクエア」事業の設置場所が廃校となった千代田区立練成中学校となり、運営団体の公募が行われ、中村氏が代表を務める合同会社コマンドAが事業の運営団体として決定しました。

2009年には施設名称を「アーツ千代田 3331」とし、アーティスト主導の展覧会やアートフェア、アーティストインレジデンス事業、こども芸術学校、地域連携プロジェクトなど、様々な展開が行われました。

アーティストから地域の人々まで、誰でも気軽に利用できるアートセンターとして、親しまれました。

なお、現在は施設の老朽化による改修工事計画によって閉館しています。

最後に※4東京ビエンナーレにつきましては、中村氏が代表を務める一般社団法人東京ビエンナーレが主催しています。

東京のまちを舞台に2年に1度開催する国際芸術祭として、第1回は2021年開催されました。

東京のまちに国内外から幅広いジャンルの作家やクリエイターが集結し、まちに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げていく芸術祭として開催しています。

2回目となる東京ビエンナーレ2023は、「リンケージ つながりをつくる」をテーマに、夏会期(7~9月)、秋会期(9~11月)で、千代田区・中央区・文京区・台東区の4区にまたがるエリアで開催を予定しております。中村氏の経歴略歴は以上でございます。

令和5年7月7日に千の葉の芸術祭実行委員会部会を開催し、中村政人氏を含む複数名の候補者の方々にについて審議いただいた結果、中村政人氏が総合ディレクター選定基準を最も満たしていると判断され、千の葉の芸術祭総合ディレクター候補として選出されました。

(神谷委員長) ありがとうございます。今の事務局の説明に対して、ご質問等はございますでしょうか。

(足立委員) 中村氏は素晴らしい実績と経歴をお持ちで、東京ビエンナーレも行われていますが、若干忙しすぎて千の葉の方に力が入らないとか、そのような懸念はないでしょうか。

(事務局) 事務局から中村氏に対して質問した限りでは、可能であるとの回答をいただいております。

(大澤委員) 複数名の候補の中から中村氏の選出に至った経過は、どのような議論であったかご説明いただきたい。

(神谷委員長) 事務局からの回答ではなく、部会からご説明いただいた方がよろしいと思いますので、先に部会でのご意見のご紹介に移って事務局よろしいでしょうか。

(事務局) 部会からのご説明を先にお願ひできればと存じます。

(神谷委員長) それでは、ご質問がございましたので、千の葉の芸術祭実行委員会部会の議長である水沢様より、総合ディレクター候補に中村政人氏を選出いただいたことにつきまして、部会でのご意見をご紹介いただきたく存じます。水沢議長、よろしくお願ひいたします。

(水沢議長) 部会では、3人の候補が挙がっており、適任性、忙しさなども含め、比較し、議論いたしました。

そのような中で、3人の委員から出た意見といたしましては、先ほどの事務局の説明にあったとおり、中村氏の実績は圧倒的です。忙しさで言うと、昔ほど忙しくはなくなった印象です。世界的に評価されているアーティストであり、底知れないエネルギーの持ち主です。中村氏は、忙しさということではそれほど心配ないと思います。

中村氏は芸術の普及活動や、芸術祭のような文化活動に非常に積極的であり、様々な形でそのようなことを試みてきて、今ちょうど節目の時期に来ています。

東京ビエンナーレは21年に、まだ1回しか開催していませんが、その背景にあるアーツ千代田3331は、引っ越しという問題が発生しており、組織は残っているが拠点は変わるということについて、多少懸念はあるかとは思いますが。

中村氏は、新しい可能性を見つけられるタイプの人です。東京の千代田で評価されてはいるけれども、自分の出発点は秋田県の大館であるとしています。

基本的に東京をベースとするという考え方ではないので、千葉市もまた自分にとって大事な場所と考えるタイプのアーティストであることは間違ありません。

加えて、コロナ禍での東京ビエンナーレの開催は大変困難でしたが、ファンディングを行いながら、やり遂げています。

出身地の大館をゼロダテというプロジェクトにした際は、大館には、既成の概念があるけれども、芸術をやるならゼロに戻してゼロダテにすることと、大館をローマ字表記にするとOがゼロに見えるということから、少しウィットも含めてゼロダテという名称にしたそうです。

出身地も根拠として大事にするタイプのディレクターはあまりいないと思います。芸術祭にふさわしいディレクターになる人だと思います。

実績を支えている背景にはアーツ千代田3331という素地があって、その活動を通じて多様なアーティスト、美術関係者、ファンレイザー等、様々なプロとネットワークを持っていると思います。様々なネットワークを持つディレクターは多くないと思いますので、自ら芸術祭を作るという覚悟を持って臨むと思います。

中村氏と一緒に千葉市が取り組めば、情報や人間関係という財産も共有することができると考えられ、非常に有用であると思います。

また、中村氏は穏やかで、関係者を元気づけながら進めていけるタイプであると思う。人間的にとっても信頼できる人であると思います。

そのようなことから、部会としては中村氏を総合ディレクターとして選定しました。

(神谷委員長) 水沢議長ありがとうございました。それでは、ご質問はございますでしょうか。

(質問なし)

(事務局) それでは、水沢議長より千の葉の芸術祭実行委員会神谷委員長に総合ディレクター候補についての答申書をお渡しいたします。

(水沢議長) 千の葉の芸術祭実行委員会 実行委員長 神谷 俊一 様

千の葉の芸術祭実行委員会部会 議長 水沢 勉

千の葉の芸術祭総合ディレクター候補の選定について

令和5年3月30日付けで諮問のありました標記の件について、下記のとおり答申します。

千の葉の芸術祭総合ディレクター候補について中村 政人氏を千の葉の芸術祭実行委員会部会として選定いたします。

(神谷委員長) いただきました答申書に基づき、議案第1号について、千の葉の芸術祭総合ディレクターを中村政人氏として決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

(神谷委員長) ご異議ないようですので、議案第1号について、千の葉の芸術祭総合ディレクターを中村 政人氏として、決定いたしました。

続きまして、議案第2号令和5年度事業計画及び収支予算(案)について、事務局より説明をして下さい。

(事務局) 事務局より説明をさせていただきます。

資料3 令和5年度事業計画及び収支予算(案)をご参照ください。

本資料は、千の葉の芸術祭実行委員会規約第3条と第8条を根拠とした、千の葉の芸術祭実行委員会の令和5年度の事業計画案でございます。また、その事業計画案を実施する上での収支予算案も下段に合わせて記載しております。

本会議にて事業計画案と収支予算案について議決いただけましたら、令和7年度の千の葉の芸術祭の開催に向けて、ここに記載の事業の着手と予算の執行をさせていただくこととなります。

では、令和5年度事業計画案から読み上げさせていただきます。

1. 令和5年度事業計画

令和5年度の千の葉の芸術祭の開催に向けて、次の事業を実施する。

(1) 総合ディレクターの選任

千の葉の芸術祭の芸術部門責任者として総合ディレクターを選任する。

(2) 開催概要の検討・決定

総合ディレクターを中心に千の葉の芸術祭に係る次の事項について検討し、総会にて「千の葉の芸術祭基本計画書」を決定する。

ア：開催テーマやコンセプト

イ：事業展開、事業内容

ウ：開催日程、開催会場

エ：イベント

(3) 令和7年度開催に向けた開催準備の着手

(4) イベントの実施 でございます。

続きまして、2. 令和5年度収支予算を読み上げさせていただきます。

2. 令和5年度収支予算

(1) 収入

1. 千葉市負担金 1,500万円

合計 1,500万円

(2) 支出

1. 事業費 1,380万円

(1) 事業企画費 980万円 基本計画策定、開催準備等

(2) イベント事業費 400万円 イベント事業等

2. 事務局運営費 120万円 実行委員会運営等

合計 1,500万円 以上でございます。

(神谷委員長) ありがとうございました。今の事務局の説明に対して、ご質問等はございますでしょうか。

(質問なし)

(神谷委員長) ご質問がないようですので、議案第2号 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

(神谷委員長) ご異議ないようですので、議案第2号については、決定いたしました。続きまして、議案第3号 部会への諮問について、事務局より説明をして下さい。

(事務局) それでは、議案第3号 部会への諮問について、ご説明いたします。

恐れ入りますが、資料4 諮問書(案)をご覧ください。

千の葉の芸術祭実行委員会規約第9条第4項の規定により、芸術祭の開催に必要な計画の策定に関する専門事項について、実行委員会から部会へ諮問していただくものでございます。

部会には、こちらの諮問を受けて8月~9月頃に開催し、総合ディレクターから提案を受け、千の葉の芸術祭の開催概要を定める千の葉の芸術祭基本計画書案について審議を行い、実行委員会総会に答申をしていただきます。

次回開催の実行委員会総会では、部会からの答申を受けて、千の葉の芸術祭基本計画書の決定をしていただきます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(神谷委員長) ただいまの説明につきまして、ご質問等はございますでしょうか。

(質問なし)

(神谷委員長) ご質問等ないようですので、それでは、議案第3号について決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

(神谷委員長) ご異議ないようですので、私より諮問いたします。部会の水沢議長へ、諮問させていただきます。

千の葉の芸術祭実行委員会部会 議長 水沢 勉様

千の葉の芸術祭基本計画書の審議について

千の葉の芸術祭実行委員会規約第9条第4項の規定により、下記の事項について諮問します。

1 諮問内容 基本計画書の審議

皆様のご協力により、予定されていた議案について、全て議決することができました。円滑な議事運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今後も、委員の皆様とともに、また、市民・企業・団体など千葉市に関わる全ての人々と千の葉の芸術祭に取り組んでまいりますので、引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。